

Autumn 2017 / No.154

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 now



昭和初期の大阪御堂筋「大阪市産業大観」より*1

濃いっ! 阪大 — 想い つなげる つむぎあう 編 —

それぞれの、始まり。

大阪大学と大阪外国語大学



- 記念式典・祝賀会 2021年5月1日(土)
中之島にて周年記念の式典・祝賀会を開催
- 箕面新キャンパス関連事業
箕面新キャンパスの竣工を記念した式典、大阪外国語大学に関連するイベント等
- 中之島キャンパス再開発関連事業
キャンパス再開発を進める中之島に関連したイベント等
- 国際シンポジウム関連事業
海外からゲストを招き、グローバルな内容で展開するシンポジウム等
- 産学官連携イベント関連事業
大阪大学の最先端の研究を紹介する、産学官が連携して実施するイベント等
- 学生イベント関連事業
周年記念大学祭や学生が主体となって展開するイベント等
- 記念出版・展示関連事業
本学の歴史を紐解く年史の刊行や歴史展の開催等

上記の各種事業は予定であり、変更する可能性があります。また、詳細は事業計画が決まったものからホームページに掲載しますのでご覧ください。

大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念 各種事業

記念すべき2021年を迎えるにあたり、地域や企業の方々に向けた魅力ある様々なイベントを、本学発祥の地である中之島、さらに吹田、豊中、箕面の各キャンパスにおいて開催を予定しています。また、この年には、箕面新キャンパスの移転事業が完了し、加えて、中之島キャンパスの再開発事業も進行中であることから、それらに関連したイベントも計画しています。今後、周年事業のための寄附募集金額の設定など、事業計画が本格化していきます。「想い つなげる つむぎあう」とあるように、周年事業を節目として、その次の1年、10年、100年へとつないでいけるよう、ともに歩んで参りましょう。

ロゴマークについて

2021年に創立90周年を迎える大阪大学、そして創立100周年を迎える大阪外国語大学を未来に向かう鳥として表現した。

鳥の体の直線は未来へ向かうタイムラインを表した。翼と胴体の交わりにより阪大・外大の統合を象徴し、外大という大きな翼によって阪大が大きく未来に向かって飛躍する様を表現している。

また、滑らかな曲線を多く用いた意匠とすることで、二つのリボンが結びついて風にたなびく姿も含めており、周年事業のコピーである「想い つなげる つむぎあう」を表現した意匠とした。

2021年は、大阪大学創立90周年、大阪外国語大学創立100周年、中之島キャンパス再開発、箕面新キャンパスへの移転などといった大阪大学にとって記念すべき年であり、「想い つなげる つむぎあう」というスローガンは、そこに向けて今を生きる私たちの気概を表現しています。

「想い」には、懷徳堂、適塾といった原点、大阪帝国大学、大阪外国語学校設立の経緯、そこから今日までの発展を支えてこられた先達と伝統に敬意を払うことを表しています。その想いをもった私たちは過去と現在と未来とを「つなげる」役割を担っています。それと同時に、個々人の様々な「想い」を「つなげる」ことによって、想いは共鳴し、響きあって新たなハーモニーを作り出します。

現在は、変革の時代であり、構成員それぞれが置かれた立場で、志をもって事に当たる必要があります。そのためには、個人での頑張りに加え、互いに協力し支えあうことが欠かせません。未来志向で互いが影響し合い、まさに協奏する様を「つむぎあう」と表現しました。

今回のフレーズは、大阪大学創立80周年記念事業のスローガンである「原点へ・未来へ」のオマージュであり、なおかつ「つなげる」には共創、「つむぎあう」には協奏の意味も包含させ、大阪大学が創立90周年に向けて進むべき道筋を示しています。また、3節に区切り、それぞれの言葉を3音、4音、5音とリズムを重視したコピーとし、親しみやすく、覚えやすいものとなるようにしました。

大阪大学を創立100周年、その次の100年、さらにずっとその先の未来にもつなげていくために、伝統に敬意を払い、変革をおそれず未来に向かっていく私たち構成員の姿勢を表現したスローガンです。

それぞれの、始まり。 大阪大学と大阪外国語大学

2021年に、創立90周年を迎える大阪大学と、
創立100周年を迎える大阪外国語大学。

ともに激動の時代に大阪に誕生した大学の始まりをご存知でしょうか？
今回の特集では、かつての学報に連載された協田修名誉教授の「大阪大学夜話」や
大阪外国語大学70年史等をもとに、それぞれの創設譚を紐解きます。

1931

大阪帝国大学医学部*1

1921

上八校舎の俯瞰図*6
(仏語部9回若西一郎氏提供)

大阪大学夜話 第一話 『地域に生き』

大阪大学 名誉教授 協田 修

大阪大学には「地域に生き世界に伸びる」という標語がある。阪大人の多くは意識しておられないかも知れないが、世界はともかく「地域に生き」というのは、いかにも大阪大学らしい特色を示すものである。

なぜ、これにこだわるかということ、ここで書いておきたい。1886年(明治19年)の帝国大学令には、旧帝国大学は「国家ノ須要ニ関スル學術技芸ヲ教授シ、及其蘊奥ヲ攻究スルヲ以テ目的トス」とあり、戦前の国家主義の傾向を反映して、国家のために必須の学問をおこなうことを定められていた。したがって建設地は地域を考慮したものの、特定の地域を重視していない。また戦後にも旧帝国大学や有力私立大学の場合には、日本・世界を志向しても地域性を考えるのは少ない。東京大学や京都大学などは首都とか古都

とかいうが、所在地として以上のことを考えているとは思えない。大阪大学が地域を重視するのは、その意味で特色のあることであった。

それは大阪帝国大学の成立史からきていると、私は思っている。東京・京都・東北・九州・北海道・名古屋と創設されてきた旧帝国大学は、関東・近畿など日本の地域区分にあわせて配置されている。近畿地方だけが二校なのである。それもあって大阪帝国大学の成立は難産であった。なぜなら近くに京都帝国大学があり、大阪には改めて必要がないというのが、当時の政府関係者の意向であったからである。

近世から江戸・大坂・京都は三都といわれて、それぞれ特色のある都市であったが、近代では大阪・京都は近接して存在するために、なにか施設をつくるにも、文化は京都、経済は大阪と、すみわけが考えられたようである。たとえば国立博物館・帝国大学は京都におかれたし、第三高等学校も大阪から京都へ移転している。

そのなかで大阪帝国大学を創設でき

たのは、大阪の政・財・学各界あげでの熱意であり、京都に遅れること35年後に成立したのであった。またこのような事情から文科系学部の成立は遅く、1948年(昭和23年)につくられたのであった。

結局、大阪帝国大学は、1931年(昭和6年)医学部・理学部ついで33年工学部を設け、さらに戦前に微生物病研究所・産業科学研究所・音響科学研究所などを創設していった。そのさい大阪地域の特殊性を考慮して「諸産業の基礎的研究」「応用諸科学の研究」に重点をおくとしている。そして母体となったのは府立大阪医科大学・塩見理化学研究所と官立大阪工業大学で、大阪府などの施設を移管したのである。そこにはまた竹尾結核研究所・山口厚生病院など篤志家の寄付にかかる施設もみられた。

このように大阪帝国大学は大阪の人々の希望と熱い援助によって創設されたのであった。本学が地域を重視するのは当然といえよう。

大阪大学夜話 第二話

『初代総長 長岡半太郎』

大阪帝国大学総長には、東京大学名誉教授・理化学研究所主任研究員の長岡半太郎が就任した。大阪では大阪医科大学学長楠本長三郎を推す空気が強く、東京では文部省などで前文部次官栗屋謙の名があがっていた。この両者に迫られた文部大臣田中隆三が、これを避けて、長岡を口説いたようである。

長岡は原子核物理学の世界的学者で、なかなかの豪傑であった。就任の条件として、研究のため東京に滞在する、次期総長を早く決定する、ことをあげている。実際、彼は東京にいて、毎月中旬の五日間だけ来阪して、大学行政にあたった。当時の総長は、現在の総長ほど忙しくはなかったと思うが、それにしても交通の便は悪かったし、大阪に生活の基盤をもたないで、よく勤まったものと思う。よほどうまく時間を使ったのであろうが、これを支える事務局は大変だったろう。

はじめて彼は長く勤める気持ちのないことを示していたが、1931年5月1日、総長に就任し、1934年6月22日依願免と、約3年間で総長をやめた。短い期間であるが、しかし彼はポイントを押さえて、大阪大学の基盤をつくった。

長岡は、まず独創的研究を重視し、他人の成果を説いている「村夫子的教授」を排斥した。この彼の意図は、新設の理学部を例に取れば、よく貫かれ、すぐれた人材、それも若手の研究者を集めたことによって、めざましい成果をあげたことは知られている。

また財源についても、現実的な意見をもっていた。3学部成立式・理学部校舎落成式での式辞のなかで、この校舎も15年・20年すれば、学問の進歩によって陳腐だといわれるだろうといい、このような研究の進展に応ずる用意が必要として、仙台の斎藤報恩会を例にひきつつ、大学への資金援助を願っている。塩見理化学研究所の例に触れなかったのは、なぜかわからないが、率直に資金の必要を語っている。



開学式において式辞をよむ長岡総長（医学部講堂 昭和6年5月1日）*1

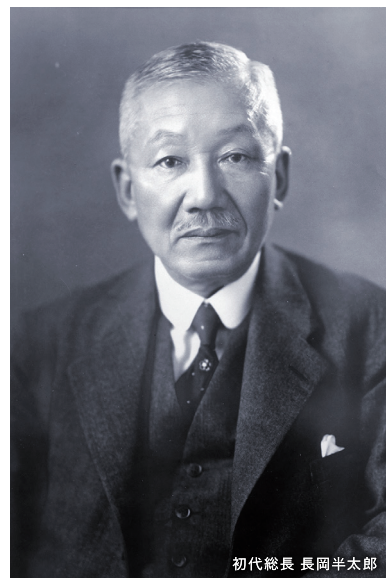
また第1回入学式では、新入生265名にひとりひとり握手をするという異例の式をおこなった。当時の帝大生はエリート中のエリートであり、旧制高校生の段階から紳士として扱われてきたが、親しく総長の激励をうけて、学生の気分は高揚したであろう。

長岡の文章によると、「総長は大学の事務官長のようなもので、学問とは余り関係のない仕事をする」とし、大学制度や授業方法についての偉大な改革をおこなうことはむずかしい、法規の鉄網に囲まれた檻にいるようなもので、動物園の獅子や虎のようなものだ、と記している。いかにも長岡らしい感想だが、彼が初代総長であったのは、大阪大学にとって、やはり大きい意義があったと思う。

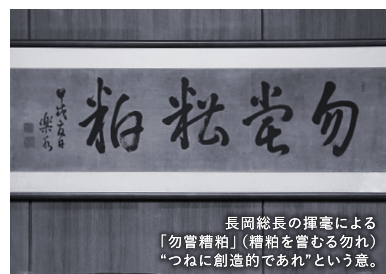
● 脇田 修（わきた おさむ）プロフィール

1931年大阪市生まれ。京都大学大学院博士課程単位取得。京都大学文学博士。大阪大学文学部教授、文学部長、評議員などを務める。94年大阪大学名誉教授。大阪大学出版会会長、大阪歴史博物館館長などを歴任。

出典：学報No.522～523（1997.7～8）



初代総長 長岡半太郎



長岡総長の揮毫による「勿耨糟粕」（糟粕を嘗むる勿れ）“つねに創造的であれ”という意。

思い出深き
東京ステーションホテル
34番室

元大阪医科大学幹事
大阪帝国大学事務官
西尾 幾治

同氏編『大阪帝国大学創立史』1935年 より

「ステーションホテル」の34番室には楠本学長が不安の面持で頑張っている。昭和6年3月25日の夜も12時を過ぎた頃、貴族院無事通過の電話で安心された所へ、知事さんを先頭に、阪田、木間瀬両氏もホテルへ帰って来られた。私もこの時ばかりはホテルの階段を3階まで夢中で駆け昇り、34番室へ飛び込んで、学長に議院の状況を詳細報告しようと思ったが、たゞもう嬉しくて知事さんや学長の顔を眺め、暫くは一言も発し得なかった。ホテルの学長受持のボーイまで喜んで、早速ビールの用意をしてくれたので、一同打揃って目的達成を祝すため、乾盃して記念の撮影を済ませたのが午前2時過であった。顧みればこの34番室は、学長が外国から帰られて、横浜からすぐにこの部屋に落付かれ、知事さんや木間瀬、阪田両氏、小沢学長代理にも面会され、亜米利加から持帰られたメロンを食べて、帝大



議會に於ける大阪帝大案危しと見て俄に關係者會合好轉策を協議す*2

創設運動の経過を聞き、留守中知事初め各位が活動せられたことに對し、深甚の謝意を表されて直に文部省に出頭、学長としての立場から帝大創設の熱烈なる要望をされたのである。そして翌年（マ、翌月カ）3月末迄の約50日間はこの部屋に陣取られ、木間瀬さんは常にこの室に同宿され、知事さんや阪田さん、関市長さん其他有志諸公も随分度々来合され、一時は大阪帝大創立事務所の観があつて、光輝ある大阪帝大創設には最も因縁深い部屋である。

出典：大阪大学五十年史 通史

写真集 大阪大学の五十年*1

大阪帝国大学創立史*2



大阪帝国大学開学式*2



大阪帝大創立案貴族院通過の夜思い出深き東京驛ホテルの乾盃（昭和六年三月二十五日）*2

大阪外国語大学(大阪外語、大阪外専…)の「むかし、いま」

「咲耶」会報No.16(2005)巻末特別付録から抜粋(一部を修正しています)

東京外国語大学が、明治6(1873)年に外国語を専門とした官立の東京外国語学校として発足後、明治18(1885)年に東京商業学校に合併された。その後、明治30(1897)年に高等商業学校附属外国語学校として再興され、2年後の明治32(1899)年に東京外国語学校として独立。

これに遅れること22年。大阪外国語大学は、大正10(1921)年、当時の大阪の財界人が持っていた先見性、国際性に加えて、公共に奉仕する矜持を持った一個人によって建てられた国立の学校である。当時、貿易、物流で活躍された林 竹三郎氏の『公共事業に寄付』の遺言により、妻の林 蝶子さんは、ときの文部大臣・中橋徳五郎の提案『国際人養成の外国語学校を大阪に』を受けて、大正10(1921)年に創設費として100万円を文部省に寄付された。そして翌年の大正11(1922)年11月11日、大阪・天王寺区上本町八丁目(元の旧制天王寺中学校敷地跡)に創設された大阪外国語学校は開校式を迎えた。

林 蝶子さんは、その功績で大正13(1924)年に勲三等瑞宝章を受章され、昭和20(1945)年に亡くなられた。校舎創設から24年を経ていたが、一番残念なことは、その初代校舎が空襲で灰燼

に帰し、生徒たちは元高槻工兵隊の兵舎に引っ越していたことであろうか。その後、再び上八校舎、そして昭和54(1979)年現在の箕面キャンパスに移転した。

この80有余年の長い歴史のなかで名称も開学当時の大阪外国語学校から昭和19(1944)年には大阪外事専門学校に改称され、そして昭和24(1949)年に大阪外国語大学が設置された。また創立時は、わずか6カ国語でスタートしたが、現在では24カ国語に増加。学科も平成5(1993)年から国際文化学科および地域文化学科の2コース制が導入され、時代のニーズに対応した大学として弛まぬ改革への努力で、その存在価値を維持し、発展し続けている。

協力：大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会「咲耶会」
出典：「咲耶」1992年10月号*3
「咲耶」No.13(2002)*4
「咲耶」No.16(2005)巻末特別付録「あけぼの」*5
(大阪外国語学校 昭和3年 卒業アルバム)
「大阪外国語大学70年史資料集」*6
参考文献：「大阪外国語大学70年史」

昭和初期の上八校舎正門*6
(仏語部12回桂勝氏提供)



林 蝶子女史*4



昭和15年頃の上八校舎*3



野球校内大会二優勝シテ*5



昭和二十二年、大阪外専、高槻校舎正門*6
(中国科26回内藤勝幸氏提供)



校旗*6
(仏語部12回桂勝氏提供)



或ル雨上リノ日、心斎橋ヲブラツイテ
松竹座ノ前デ語ツタコトガアツタガ……*5



スペイン文豪ビオ・バローハの大作「霧ノ都」講義*5



インドネシア語語劇*6
(大学ロシア語学科1回今市睦浩氏提供)



体育祭での仮装行列*6(仏語部12回桂勝氏提供)



昭和十年頃、阪急梅田駅前の市電と市バス*6
(仏語部12回桂勝氏提供)

グローバルナレッジパートナーとの連携強化が果たす役割

では、今、大阪大学はどのように世界と向き合っているのでしょうか？その鍵となるのが「グローバルナレッジパートナーとの連携強化」の取組です。

連携強化の具体的な手法として、実質的に人材が交流する仕組みを整えます。まず長期的には、クロス・アポイントメント制度による外国人研究者の受入れやジョイントラボの相互設置、短期的には若手研究者の派遣や受入れ、セミナー・ワークショップの開催、研究資金面でも、国内外の大型研究助成への共同申請、そしてこれらの活動とその持続性を支える仕組みづくりを行います。教育の側面でも、ダブル・ディグリー・プログラム、博士後期課程の共同指導（コチュエル）などの制度を整えることで、研究を軸にした学生の交流も促進します。すでに

グローバルナレッジパートナーは5～8機関を想定しています。また、部局に対して活動に必要な経費支援を行うなど、グローバルナレッジパートナーとの教育研究交流促進のための様々な施策を検討中です。



1, 2, 3) 9月に訪中した西尾総長と上海交通大学との交流の様子。

4) 上海交通大学の学生から、西尾総長に贈られた西尾総長フィギュア。忙しく世界中を飛び回る主に代わり、総長室の留守を守る。

5, 6, 7) 10月初旬に来学されたUCL学長一行との協議の様子。

阪大NOW Autumn 2017 / No.154 09

役員室だより

from: マイ ハンダイ

阪大の“いま”に今すぐアクセス！
>> <https://my.osaka-u.ac.jp/>
マイハンダイに掲載中の役員室だよりから
タイトルのみを掲載しています。



Open Education

教育オフィス

平成30年度から全学部生を対象に数理・データ科学教育を本格化

数理・データ科学教育研究センター（MMDS）は、全学部生を対象とした新カリキュラムを提供し、ビッグデータ、AIが普及する未来社会に創造的に対応できる人材を育成します。

グローバル連携オフィス

「龍門窓口」が中国からの学生の入学申請をサポート！

教員に代わり、学生への最初のコンタクトと必要書類の提出手続きをサポートします。是非ご利用ください。

留学生が欲しい情報をギュッと1冊に。大阪大学留学案内2017を刊行

必要部数を国際学生交流課まで申し出いただければ、学内便でお届けします。

教員と学生の双方にメリットあり！

Open Research

研究オフィス

研究設備・機器を全学でシェアして、効率的な研究活動を！

本学にある研究設備・機器を効率よく共用できれば、研究費の有効活用につながります。全学的な研究設備・機器の共用促進に向けて、様々な活動に取り組んでいますので、ご活用ください。

皆様の研究活動にお役立てください！

Open Innovation

産学共創本部

イノベーション・ジャパン2017に大阪大学ブースを出展

イノベーション・ジャパン2017において“共創テーマ研究”について広く紹介しました。

東京ビッグサイトに出張しました！

Open Community

男女協働推進センター

おしゃれ空間誕生！平成29年11月、共創イノベーション棟1階に 男女協働推進センター コラボレーティブ・スペースを開室

自由な交流を行う場としてどなたでもご利用いただけます。吹田キャンパスでの一時預かり保育も実施可能となります。

新たなトイレサイン「ALL GENDER」の作成

共創イノベーション棟1階のトイレを整備しました。オストメイトトイレに“ALL GENDER”のサインを使用し、多様な性をもつ方が安心して使用できます。

授乳室としてもご利用いただけます！

Open Governance

大学経営推進室、教育研究共創室

経営体制を強化

経営体制の更なる強化のため、平成29年8月26日付で経営体制を変更しました。
主な変更点として、横断的判断が必要な事項の調整を担う総括担当事務を2名設置、また部局単位や全学一元的な対応が困難な課題を検討するため3つの戦略会議を設置し、部局間の企画調整機能を強化します。

計画評価オフィス

本年度も折り返し点。「年度計画」の進捗はいかがでしょう？

PDCAを意識した部局運営に年度計画・部局評価をご活用ください。

財務オフィス

物品調達システムの全学運用を10月から開始

公的研究費の不正使用に係る再発防止策の一環として導入の物品調達システムについて、10月から全学で運用開始となりましたので、本システムによる発注をお願いします。

より迅速かつ効率的な発注に！

人事労務オフィス

障がい者雇用促進に関する講演会を開催

平成29年度障がい者雇用促進に関する講演会を吹田キャンパスの銀杏会館で開催しました。

8年連続法定雇用率以上の雇用を達成！

今年の障がい者雇用率は2.37%となり、平成22年度から8年連続で法定雇用率（2.3%）を上回る雇用を達成しました！

男女協働推進センター

平成29年度ダイバーシティ教育研究環境実現シンポジウム ～ロールモデルの多様化と理工系女性研究者育成～を開催

本学が理工系女性研究者育成のために行っている取組を、大阪の公立・私立大学とも連携し、関西地域に広がる取組として展開する可能性を検討しました。当日は、経済産業省から本学に大きな期待が寄せられました。

常勤教員の男女協働意識に関するアンケート調査にご協力ください

魅力あるダイバーシティ環境実現に向けた取り組みの一環として、本学の常勤教員が男女協働に関してどのような意識を有しているかを把握するためのアンケート調査を実施しますのでご協力をお願いします。

国立大学として「先駆け」となる「性的指向(Sexual Orientation)」と 「性自認(Gender Identity)」の多様性に関する基本方針の策定

魅力あるダイバーシティ環境実現に向けて、本学は、全構成員（学生・教職員等）を対象とした「性的指向(Sexual Orientation)」と「性自認(Gender Identity)」の多様性に関する基本方針を策定しました。

多様な性のある職場を目指して！

情報推進本部

情報セキュリティ対策は、構成員一人ひとりの意識と行動がもっとも大切

今すぐチェックしてみましょう！

あなたのセキュリティ意識は大丈夫ですか？

各タイトルの記事の全容はマイハンダイをご覧ください。

受賞・表彰

受賞等	受賞者	所属
The 2nd Place winner in the paper competition of the 13th APRU Multi-Hazards Symposium	李 婧 (Li Jing) さん 大谷 順子 教授	人間科学研究科 (M) 人間科学研究科
第11回インドネシア語スピーチコンテスト特別総合最優秀賞	吉野 真輝 さん	外国語学部
第11回インドネシア語スピーチコンテストカテゴリー A 最優秀賞	古谷 幸之輔 さん	外国語学部
第11回インドネシア語スピーチコンテストカテゴリー B 最優秀賞	藤森 優菜 さん	外国語学部
2017日本学生ペタンク選手権大会優勝	長崎 健人 さん 谷口 慶太 さん	外国語学部 外国語学部
2017日本学生ペタンク選手権大会準優勝	小泉 亜瑠 さん 和田 隼毅 さん	外国語学部 外国語学部
平成29年度日本歯科医師会/デンツプライシロナスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム日本代表選抜大会 基礎部門第2位	松本 夏 さん 明間 すずな さん	歯学部 歯学部
平成28年度特別研究員等審査会専門委員(書面担当)及び国際事業委員会書面審査員の表彰(日本学術振興会)	芝原 正彦 教授 馬場口 登 教授	工学研究科 工学研究科
環境技術学会第17回年次大会(研究発表会)「プレゼンテーション賞」	奥村 拓也 さん	工学研究科 (M)
The 8th International Symposium on Adaptive Motion of Animals and Machines (AMAM2017 HOKKAIDO) 「Outstanding Poster Award」	増田 容一 日本学術振興会特別研究員	工学研究科
「平成28年度電子情報通信学会論文賞」	野村 健二 さん 林 直樹 助教 高井 重昌 教授	工学研究科 (M) 工学研究科 工学研究科
IEEE TrustCom 2017「Best Paper Award」	宮地 充子 教授	工学研究科
「井上春成賞」	山村 和也 准教授	工学研究科
2017年度日本ロボット学会 学会誌論文賞	東森 充 准教授	工学研究科
日本生物工学会 第53回生物工学奨励賞(斎藤賞)	古賀 雄一 准教授	工学研究科
日本生物工学会 第6回生物工学学生優秀賞(飛翔賞)	中野 洋介 さん	工学研究科 (D)
日本医療研究開発機構 (AMED)-ニューヨーク科学アカデミー (NYAS) 合同ワークショップ“Interstellar Initiative” 「Outstanding Team Presentation Award」	新聞 秀一 准教授	工学研究科
日本生物工学会 第25回生物工学論文賞	山野 範子 招へい教員 大政 健史 教授	工学研究科 工学研究科
第69回日本生物工学会大会・若手会シンポジウム 博士後期課程学生口頭発表 最優秀賞	兼吉 航平 さん	工学研究科 (D)
平成28年度特別研究員等審査会専門委員(書面担当)及び国際事業委員会書面審査員の表彰(日本学術振興会)	和田 成生 教授	基礎工学研究科
MIRU論文評価貢献賞	岩井 大輔 准教授	基礎工学研究科
一般社団法人 日本機械学会 材料力学部門賞 業績賞	尾方 成信 教授	基礎工学研究科
公益社団法人 日本金属学会 論文賞(力学特性部門)	尾方 成信 教授	基礎工学研究科
一般社団法人日本計算工学会第22回計算工学講演会 ベストペーパーアワード	尾方 成信 教授 君塚 肇 准教授	基礎工学研究科 基礎工学研究科
日本バーチャルリアリティ学会論文賞	岩井 大輔 准教授	基礎工学研究科
日本機械学会フェロー	和田 成夫 教授	基礎工学研究科
日本学術振興会特別研究員等の書面審査表彰	和田 成夫 教授	基礎工学研究科
2016 JBSE PAPERS OF THE YEAR AWARD	和田 成夫 教授 越山 顕一郎 講師	基礎工学研究科 基礎工学研究科
2016 JBSE GRAPHICS OF THE YEAR AWARD	和田 成夫 教授 越山 顕一郎 講師	基礎工学研究科 基礎工学研究科
公益社団法人日本生物工学会 生物工学賞	田谷 正仁 教授	基礎工学研究科
第39回応用物理学会論文賞(応用物理学会優秀論文賞)	鈴木 義茂 教授	基礎工学研究科
文化庁メディア芸術祭優秀賞	石黒 浩 教授 小川 浩平 特任講師(常勤)	基礎工学研究科 基礎工学研究科

“Gawad Dangal ng Wikang Filipino” フィリピン国語名誉賞	大上 正直 教授	言語文化研究科
平成29年「海の日」国土交通省海事功労者等表彰 近畿地方整備局長表彰 港湾・空港の発展功労	赤井 伸郎 教授	国際公共政策研究科
第35回(平成29年度)大阪科学賞	原 隆浩 教授	情報科学研究科
平成28年度特別研究員等審査会専門委員(書面担当)及び 国際事業委員会書面審査員の表彰(日本学術振興会)	渡辺 純二 准教授	生命機能研究科
第4回感染症若手フォーラム ベストプレゼンテーション賞	新澤 直明 助教	微生物病研究所
第11回研究所ネットワーク国際シンポジウム Early Carrier Investigator Award	木戸屋 浩康 助教	微生物病研究所
第45回日本免疫学会学術集会 Best Presentation Award 2016	平安 恒幸 特任助教(常勤)	微生物病研究所
平成29年度科学技術分野 文部科学大臣表彰 若手科学者賞	佐藤 莊 助教	微生物病研究所
Society for the Study of Reproduction SSR Research Award	伊川 正人 教授	微生物病研究所
MIRU論文評価貢献賞	満上 育久 助教	産業科学研究所
平成28年度セルロース学会奨励賞	古賀 大尚 特任助教(常勤)	産業科学研究所
GSCポスター賞	佐古 真 助教 笹井 宏明 教授 滝澤 忍 准教授	産業科学研究所 産業科学研究所 産業科学研究所
人工知能学会 研究会優秀賞	沼尾 正行 教授 福井 健一 准教授	産業科学研究所 産業科学研究所
化学とマイクロ・ナノシステム学会 第36回研究会優秀研究賞	有馬 彰秀 特任助教(常勤) 筒井 真楠 准教授 殿村 渉 特任助教(常勤) 横田 一道 助教 谷口 正輝 教授	産業科学研究所 産業科学研究所 産業科学研究所 産業科学研究所 産業科学研究所
電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ 貢献賞	槇原 靖 准教授	産業科学研究所
放射線化学賞	藤塚 守 准教授	産業科学研究所
日本バーチャルリアリティ学会論文賞	武村 紀子 特任助教(常勤)	産業科学研究所
Renewable Energy global innovations Key Scientific Article	小林 光 教授 松本 健俊 准教授	産業科学研究所 産業科学研究所
第2回分子科学国際学術賞	谷口 正輝 教授	産業科学研究所
第31回独創性を拓く先端技術大賞 フジサンケイ ビジネスアイ賞	張 奕勁 日本学術振興会特別研究員	産業科学研究所
公益社団法人有機合成化学協会関西支部 ポスター賞	青木 孝憲 さん 笹井 宏明 教授 滝澤 忍 准教授 佐古 真 助教	産業科学研究所 (M) 産業科学研究所 産業科学研究所 産業科学研究所
日本神経精神薬理学会 学術奨励賞	疋田 貴俊 教授	蛋白質研究所
4th Japan-Korea International Symposium on Materials Science and Technology 2017 (JKMST2017) Best Poster Awards	大橋 昇平 さん	レーザー科学 研究所 (D)
タイ王国マヒドン大学名誉博士号	仁平 卓也 ASEAN拠点長・教授	生物工学 国際交流センター

※受賞や表彰を受けられた場合は、部局広報担当係を通じて広報課までお知らせください。



大阪大学の医学教育・研究・診療を支援する



一般財団法人 恵済団

大阪大学医学部附属病院内の売店(ローソン)、
薬店、食堂、サブウェイを運営しています。

阪 印

信頼と実績

昭和44年創業以来、「お客様の気持ちを第一に」を社是として歩んでまいりました。
培ってきた信頼と実績が私たちの誇りです。

〒553-0004 大阪市福島区玉川3-6-4
TEL:06-6443-0936 FAX:06-6443-1684 E-mail:bandopv@skyblue.ocn.ne.jp

阪東印刷紙器工業所

新理事・副学長

発令日	氏名	担当
平成29年8月26日	河原 源太	グローバル連携、学生支援担当

新総長参与／新総長特命補佐

発令日	氏名	現職	担当
平成29年8月26日 総長参与	金水 敏	文学研究科・教授	総長の求めに応じ意見を具申
	金田 安史	医学系研究科・教授	総長の求めに応じ意見を具申
平成29年8月26日 総長特命補佐	堂目 卓生	経済学研究科・教授	教育・研究改革関係
	村田 正幸	情報科学研究科・教授	経営企画関係
	池田 雅夫	経営企画オフィス・特任学術政策研究員（常勤）	共創機構関係

新部局長

発令日	氏名	職名
平成29年8月26日	谷崎 久志	経済学研究科長
	尾上 孝雄	附属図書館長
	三阪 佳弘	適塾記念センター長
	小川 哲生	中之島センター長
平成29年10月1日	大内 一	外国語学部長
	萩原 政幸	低温センター長

新教授

発令日	氏名	所属	前職
平成29年7月16日	榮藤 稔	先導的学際研究機構附属暮らしの空間デザインICTイノベーションセンター	株式会社NTTドコモ
	松井 俊弘	産学共創本部講座外	総務省
平成29年8月1日	福田 雅樹	法学研究科法学・政治学専攻総合企画法政講座	総務省
	村上 秀明	歯学研究科口腔科学専攻口腔分化発育情報学講座	本学准教授
	岡田 直貴	薬学研究科附属創薬センター講座外	本学准教授
	伊野 文彦	情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻並列処理工学講座	本学准教授
	松田 史生	情報科学研究科バイオ情報工学専攻共生ネットワークデザイン学講座	本学准教授
平成29年8月16日	鈴木 啓一郎	高等共創研究院講座外	Salk Institute for Biological Studies
	高田 一宏	人間科学研究科人間科学専攻教育環境学講座	本学准教授
	八十島 安伸	人間科学研究科人間科学専攻行動生態学講座	本学准教授
	山村 和也	工学研究科精密科学・応用物理学専攻精密科学講座	本学准教授
	能木 雅也	産業科学研究所第2研究部門（材料・ビーム科学系）	本学准教授
平成29年9月1日	蔵満 康浩	工学研究科電気電子情報工学専攻先進電磁エネルギー工学講座	国立中央大学（台湾）
	荻 博次	工学研究科精密科学・応用物理学専攻精密科学講座	本学准教授
	降旗 大介	サイバーメディアセンターコンピュータ実験科学研究部門	本学准教授
平成29年10月1日	松井 太	文学研究科文化形態論専攻世界史講座	本学准教授
	敦賀 貴之	社会経済研究所政策研究部門	京都大学

定年退職教員（平成29年9月30日）

所属	氏名
医学系研究科	恵口 豊

工学部	大城 芳樹 名誉教授	平成29年8月7日 逝去
工学部	赤木 新介 名誉教授	平成29年8月14日 逝去
工学部	増淵 正美 名誉教授	平成29年8月31日 逝去

阪大 ほっとニュース

第56回全国七大学総合体育大会（七大戰）で
硬式テニス（女子）が1位、
樋口菜穂子さん（理）が
最優秀選手に



準硬式野球部が優勝

阪大漕艇部が
関西選手権で優勝



平成29年度
秋季卒業式・大学院
学位記授与式を挙行



佐久間洋司さん（基）が
トビタテ！留学JAPAN
日本代表プログラム
第三回留学成果報告会で
優秀賞を受賞

阪大生3名（外）が
「第11回インドネシア語
スピーチコンテスト」で
最優秀賞受賞など入賞

2017日本学生
ペタンク選手権大会で
本学ペタンクサークルの
2チームが優勝・準優勝



全日本学生女子ヨット選手権大会で
ヨット部スナイプ級スキッパーの
中村葵さん（工）が
最優秀選手賞を受賞、
大阪大学は総合成績で6位入賞



「発明貢献度で1位」など各ランキングで上位に

Nature
「Nature Index 2017
Innovation」

世界第31位 国内第1位

ロイター社
「イノベティブな大学
ランキング」

世界第34位 国内第2位

阪大のメディア露出

3か月で352に！

（対象期間 2017/7/1～9/30）

マイハンドايでは、毎日、
大阪大学のメディア露出状況を
お知らせしています。
上記期間にTV、新聞、
Web等に掲載された記事は
352種類に上りました。

※ プレスリリースとあわせて、記者会見を
行うとメディアに掲載される率は高まり
ます。研究成果やイベント等のプレス
リリースのご相談は、各部局の広報担当
部署へ！

詳細は、本学公式ウェブページ（www.osaka-u.ac.jp）「ニュース＆トピックス」または大阪大学Facebookページ（www.facebook.com/OsakaUniversity）をご覧ください。

速報

斯波義信名誉教授、松原謙一名誉教授が文化勲章を受章、 村井眞二名誉教授、坂口志文特任教授(常勤)が文化功労者に!

本学の斯波義信 名誉教授(文学研究科)、松原謙一 名誉教授(細胞生体工学センター)が文化勲章を受章され、村井眞二 名誉教授(工学研究科)、坂口志文 特任教授(常勤)(免疫学フロンティア研究センター)が文化功労者に選ばれました。



斯波 義信 名誉教授
(文学研究科)
研究分野: 中国史

宋代以降の中国社会を、商業の発展を原動力として捉え、包括的に分析。中国都市の詳細な歴史を解明した。



松原 謙一 名誉教授
(細胞生体工学センター)
研究分野: 分子生物学

日本の分子生物学研究において、生命現象のメカニズム研究、遺伝子組換え技術の開発と応用並びにゲノム研究で卓越した業績を挙げた。



村井 眞二 名誉教授
(工学研究科)
研究分野: 有機合成化学

炭素と水素の結合を金属触媒を用いて効率よく切断できることを示すなど、有機合成手法の革新に貢献した。



坂口志文 特任教授(常勤)
(免疫学フロンティア研究センター)
研究分野: 免疫学

免疫学の分野で制御性T細胞を発見。自己免疫病やアレルギーなどにおける役割を解明、臨床応用への道を開いた。

西尾 総長コメント

本学の斯波義信名誉教授および松原謙一名誉教授の文化勲章受章、並びに、村井眞二名誉教授および坂口志文特任教授(常勤)の文化功労者顕彰の決定の報に接し、心からお喜び申し上げます。

このたび栄に浴されます先生方は、優れた研究成果を残され、そのご功績が結実されましたこと、この上ない喜びであると同時に、深甚なる敬意を表します。

文化勲章受章および文化功労者顕彰は、本学にとって誇りであり、私たちに大きな夢と希望を与えてくれました。

先生方に心からお祝い申し上げますとともに、今後とも健勝で、ますますご活躍されることを祈念しています。

本学教職員一同は、先生方の業績を大きな励みとして、さらなる発展に努力してまいります。

大阪大学総長 西尾 章治郎

Information

詳細は、本学公式ウェブページ(www.osaka-u.ac.jp)「イベント情報」をご覧ください。

12/2(土) 15:00~

学生会館(東京・神田)

「大阪大学の集い
in 東京」を開催!

今年は歌手、
木山裕策さんの
(大阪外国語大学卒業)
ライブステージ!

■セレモニー・ライブ 15:00 ~ 16:10

*ライブステージ 歌手 木山 裕策さん(1992年大阪外国語大学卒業)

※先着順で350名に達し次第、サテライト(中継)会場でのお申し込みとなります。

■交流会 16:30 ~ 18:00

※参加費4,000円(卒業・修了後10年の方は2,000円、大学生は1,000円、高校生以下は無料)

※当日は、臨時託児室を設置します。

※参加申し込みなど、詳細は大阪大学公式ホームページ等をご覧ください。

[URL] osku.jp/r0271

阪大NOW Autumn 2017 / No.154 2017年 秋 発行

デザイン: 大阪大学広報企画本部クリエイティブユニット

編集・発行: 大阪大学企画部広報課

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1 TEL:06(6879)7017 FAX:06(6879)7156

学内向け広報誌「阪大NOW」へのご意見・ご感想は、

マイハンドアイで実施中の阪大NOW読者アンケートへお願いいたします。[アンケート回答ページ] osku.jp/b0542

次号(No.155)は2018年冬(1月下旬予定)に発行予定です。

バックナンバーは、本学公式ウェブページ(www.osaka-u.ac.jp/ja/news/publicrelation/now)からご覧いただけます。



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY